2 **モード/セットボタン**を3秒以上押し続ける。
→チャイムの設定モードに入り、[時]部分が点滅します。

[チャイムの設定時刻]の表示

3 ⊕**ボタン**、⊖**ボタン**を押して[時]を設定する。

[時]の設定

4 [時]の設定が終了したら、**モード/セットボタン**を押す。
→[分]部分が点滅します。

[分]の設定

5 ⊕**ボタン**、⊖**ボタン**を押して[分]を設定する。

6 [分]の設定が終了したら、**モード/セットボタン**を押す。
→チャイムのON/OFFの設定画面になり、OFFが点滅します。

[ON/OFF]の設定

7 ⊕**ボタン**、⊖**ボタン**を押して、チャイムのON/OFFを設定します。

8 ON/OFFの設定が終了したら、**モード/セットボタン**を押す。
→チャイムの設定時刻が表示されて設定が完了し、約15秒後に通常時刻表示に戻ります。設定したチャイムがONのとき、設定した時刻になると「ピピ・ピピ・ピピ」とチャイムが約3秒間鳴ります。

※ [秒単位]の設定はできません。
※ [午前]と[午後]を間違えないように注意してください。
※ 通常時刻表示のとき**チャイムボタン**押すごとに、チャイム[1]～[4]の設定時刻が表示します。このとき⊕**ボタン**、⊖**ボタン**を押して、各チャイムのON/OFFを設定することが出来ます。

■ 環境目安表示について

温度と湿度の数値から、現在の環境状態を表示します。
[快適/インフルエンザ/熱中症/乾燥]

※ 温度と湿度の数値によっては、何も表示しない場合があります。
※ 環境目安表示は、あくまで空調や体調管理の目安です。表示により発生の有無を断定するものではありません。公的機関から発表される「注意」「警報」などとは一致しない場合があります。
※ 本製品はインフルエンザ・熱中症を完全に防止できる製品ではありません。
※ 本製品は、商取引や証明には使用できません。また、医療及び業務用製品ではありません。

■ 警報ブザーについて

通常時刻表示のとき⊖ボタンを押すと、警報ブザーマークが点灯します。
→「インフルエンザ注意」「熱中症注意」「乾燥注意」のいずれか一つでも点灯すると、「ピーー」と長めの警報音が2回鳴ります。

※ 「快適」が点灯した場合は、警報音は鳴りません。
※ 警報ブザーを鳴らさない場合は、⊖ボタンを押して、警報ブザーマークを消灯してください。

■ 温度湿度表示機能について

- 本製品は工業用(業務用)計測機器として使用する目的で製造されたものではありません。温度湿度表示機能は、センサーが本体内部に設置されているため、表示が安定するまでに時間がかかる場合があります。
- 他の製品、温度計・湿度計との誤差が発生する場合があります。
- 使用温度範囲を超えた場合、故障の原因となりますので、ご注意ください。

■ 液晶表示について

- 液晶表示は角度により見えにくくなります。
- 温度が低くなると液晶表示の反応が遅くなることがあります。
- 0～+40℃の温度範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなることがあります。
- 液晶表示板は5年を過ぎるとコントラストが低下して、表示が見えにくくなることがあります。
- 液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。

■ 六曜表示について

六曜とは暦注の一つで、先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口の6種類があります。

※ 本製品の六曜表示は、2010年～2050年まで表示します。2051年からは表示しません。
※ 2033年～2034年の間は、旧暦の法則では月名が決定できなくなるため、本製品は代替えの基準を適用しています。このため、六曜の表示が他のカレンダーと異なる場合があります。
※ 六曜は慣習として使われていますが、公的機関が定めたものではありません。

■ 電池の交換について

- 電池容量が少なくなると、液晶表示が薄くなったり、歪んだり、アラーム音が小さくなったりします。このような場合は速やかに同じ種類の新しい電池に4個同時に交換してください。

※ 買い置きの電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により電池寿命が短くなることがあります。

■ リセット操作について

電池を電池ホルダからはずした直後は、静電気や内部に残っている電流により、誤動作(誤表示)する場合があります。電池を入れる前に、必ず**RESETボタン**を押してください。

※ **RESETボタン**は、先の細い尖っていない棒などで押してください。針などの先端の鋭利なものを使用すると、ボタンが破損しますのでご注意ください。

■ お手入れについて

- プラスチック部品、ガラスをふくときは、水で薄めた中性洗剤を少量含ませた柔らかい布でふいた後に、カラぶきしてください。
木製部品、金属部品は柔らかい布でカラぶきしてください。
- ベンジン、アルコール、ミガキ粉、ブラシは使用しないでください。
変色、変形、傷のおそれがあります。

※ **お客様が分解しますと、修正不可能になる場合やケガのおそれがあり大変危険です。また保証の対象外となります。**

■ 仕様

時間精度	平均月差±30秒以内(気温25℃で使用した場合) (電波時計による時刻修正を行わない場合)	
表示精度	±1秒以内(電波受信による時刻修正の直後)	
使用温度範囲	0～+40℃　※結露なきこと(外観/機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)	
使用推奨電池	単3形アルカリ乾電池(LR6 1.5V)4個	
電池寿命	約11ヵ月(単3形アルカリ乾電池4個を使用した場合)	
電波受信	40kHz/60kHzのどちらか受信しやすい電波を受信し、現在時刻に合わせる ●自動受信(最多4回/1日)　●手動受信	
時刻表示	12時間制表示、24時間制表示	
カレンダー表示	2010年1月1日～2099年12月31日(フルオート)	
六曜表示	2010年～2050年(2051年から表示しません)	
温度計	表示範囲	−9.9～+50.0℃　※−9.9℃より低いとLL.L、+50.0℃より高いとHH.Hを表示
	精度	±1℃ (0～+40.0℃の範囲)
湿度計	表示範囲	20～99%RH　※20%より低いとLL、99%RHより高いとHHを表示
	精度	±5% (常温時、40～70%RHの範囲)
環境目安表示	快適/インフルエンザ注意/熱中症/乾燥	
警報ブザー	電子音	
アラーム	電子音(2分間オートストップ)	
プログラムチャイム	最大設定数4個	

※ 商品改良の為、仕様・外観等を予告なく変更することがあります。この変更によって生じる損害については、当社はその責任を負いかねますので予めご了承ください。

株式会社 MonotaRO
https://www.monotaro.com/
TEL:0120-443-509
MADE IN CHINA
作成日 2025.6.9

取扱説明書

モノタロウ 電波置掛時計 大型デジタル 環境目安表示機能付き

注文コード：18609888

このたびは、電波置掛時計 大型デジタル 環境目安表示機能付きをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。また、いつでも取り出せる場所に必ず保管してください。

1 安全にお使いいただくために

ここに書かれた注意事項は、人体への危害や財産への損害を未然に防止するための内容です。
いずれも安全にお使いいただくためには重要ですので、必ずお守りください。

この表示を無視して、誤った使い方をしたときに生じる内容を、3つに区分しています。

⚠**危険**	この表示内容を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が切迫して想定される内容をしめしています。
⚠**警告**	この表示は、注意事項を無視して誤った使い方をした場合に、「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。
⚠**注意**	この表示は、注意事項を無視して誤った使い方をした場合に、「ケガや傷害を負うこと、製品の破損やそれに伴う財産の損害が発生するおそれがある」内容です。

この取扱説明書には下記のマークを付けています。

⃠	してはいけないこと(禁止)
❗	しなければいけないこと(指示)

ご使用上の注意

【はじめに】　**誤った使用方法により人的傷害や製品の破損、その他の物的損害が生じた場合、一切の補償、責任を負いません。また、本製品の分解・改造・修理は、決して行わないでください。**

本体の注意

⚠**警告**

❗ 強制	● **誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、乳幼児の手の届く所に置かない** 万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受ける。
⃠ 禁止	● **分解や改造をしない** ケガや故障、火災や感電の原因になる。 ● **故障や破損した状態で使わない** ケガや火災、感電などの原因になる。 ● **ぬれた手でさわらない** さびや故障、感電の原因になる。 ● **浴室やサウナ、温室など、高温・高湿になるところでは使わない** さびや故障、感電の原因になる。 ● **本体内部に水分や異物を入れない** ● **火の中に捨てたり加熱しない** ● **梱包用袋は絶対に被らない**

⚠**注意**

⃠ 禁止	● **下記のような場所では使わない** 精度の低下、部材の変形、変色、劣化、故障の原因になる。 ◆直射日光が当たる所 ◆火気のそば ◆暖房機器の風が当たる所 ◆温度が+40℃以上の所、または−10℃以下の所 ◆寒暖差が大きい所 ◆ほこりが多く発生する所 ◆強い磁気を発生させる機器のそば ◆車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所 ◆プール、温泉場などガスの発生する所 ◆調理場など多くの油を使用する所 ◆色移りや付着、変質の可能性があるため、ゴムや軟質のポリ塩化ビニルに、長い間、直接ふれさせておかない。 ● **強い振動や衝撃を与えない** 故障や破損の原因になる。

電池の注意

⚠**危険**

❗ 強制	● **誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、乳幼児の手の届く所に置かない** 飲み込んだ場合、あるいは飲み込んだおそれのある場合は、直ちに医師に連絡して指示を受けてください。
⃠ 禁止	● **電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことを守る。** ◆電池に傷をつけない。 ◆電池をショートさせない。 ◆電池を充電しない。 ◆電池を加熱しない。 ◆電池を火の中に入れない。 ◆電池に直接ハンダ付けをしない。 ◆⊕と⊖を逆に入れない。 ● **電池の液漏れが起きたときは、素手でさわらない。** 衣服に付着した場合は、すぐに水で洗い流す。 アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する可能性が高い。

⚠**注意**

❗ 強制	● **電池の⊕⊖を正しく入れる** 正しく入れなかった場合、液漏れや発熱の原因となり、ケガや故障の原因になります。

■ 電池について

- **電池のご使用上のポイント**
◆⊕と⊖を間違えない。
◆時計が動いていても定期的に交換する。
◆長期間使用しないときは機器から電池を取り外す。
◆時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
◆電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- **電池の種類について**
推奨以外の電池では製品仕様を満たさない場合や正常に機能しないことがあります。
一部の高性能電池は、初期電圧が高く時計には不向きなものがあります。
アルカリ乾電池とマンガン乾電池はどちらも使用可能ですが、一般にアルカリ乾電池の方が長持ちします。
アルカリ乾電池とマンガン乾電池は併用しないでください。
充電式電池・リチウム乾電池には対応しておりません。機械に不具合が起きる可能性がありますので、使用しないでください。

■ 電池の交換について

⚠**注意**　電池からの液漏れにより、時計の修理や壁面の修繕などに費用が発生することがあります。電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことをお守りください。

- **時計が停止したときは、速やかに新しい電池に交換するか、電池を取り外す。**
- **時計が動いていても、製品仕様欄に記載の電池寿命を目安に、定期的に交換する。**

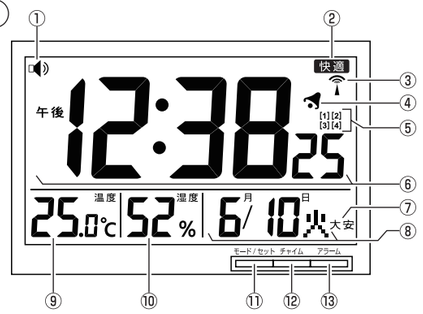
※ 電池着脱の際は、ケガをしないように注意してください。

■ 電池・時計の廃棄について

- 廃棄の際は、お住いの地区自治体の指定に従ってください。
- 電池を廃棄、または保存する場合は、テープなどで絶縁する。
(他の金属や電池と接触して発火・破裂のおそれがあるため)

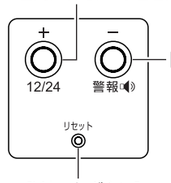
2 各部の名称

本体正面



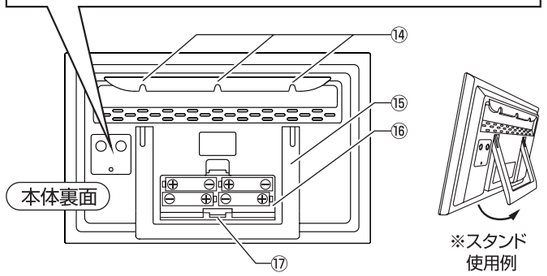
操作部拡大図

[+ボタン･12/24ボタン](以後、⊕ボタンと表記)
設定操作中に1回押すごとに項目を加算します。
通常時刻表示のときに押すと、12/24時間表示を切替えます。



[−ボタン･警報ボタン](以後、⊖ボタンと表記)
設定操作中に1回押すごとに項目を減算します。
警報ブザーのON/OFFに使用します。
手動受信と受信停止するときに
使用します。

[リセットボタン]
表示と設定内容を初期化するボタンです。



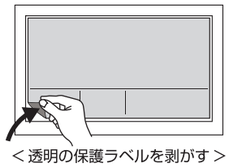
※スタンド
使用例

①	警報ブザーマーク
②	環境目安表示:温度と湿度の数値から、現在の環境状態を表示します。 ※ 温度と湿度の数値によっては、何も表示しない場合があります。
③	受信マーク:受信の結果を表示します。
④	アラームマーク:アラームがONのとき表示します。
⑤	チャイムマーク:チャイムがONのとき表示します。
⑥	時刻表示:時/分/秒を表示します。
⑦	六曜表示(先勝/友引/先負/仏滅/大安/赤口)
⑧	カレンダー表示:カレンダー(月/日/曜日)を表示します。
⑨	温度表示:本体内蔵のセンサーにより温度を表示します。
⑩	湿度表示:本体内蔵のセンサーにより湿度を表示します。
⑪	[モード/セットボタン] 手動時刻設定/アラーム時刻設定/チャイム設定に使用します。
⑫	[チャイムボタン]チャイムのON/OFFに使用します。
⑬	[アラームボタン]アラームのON/OFFに使用します。
⑭	壁掛け部
⑮	スタンド
⑯	電池ホルダ ※電池を入れるときは⊖側から入れてください。 ※電池を外すときは⊕側から外してください。 **⚠注意** ●種類の違う電池、古い電池と新しい電池などを混ぜて使用しないでください。 電池の破裂や時計の故障の原因になります。
⑰	電池フタ

3 使用方法

1 透明の保護ラベルを剥がす。
※ **ラベルを剥がす際に、液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。**

2 電池フタを開けて単3形乾電池4個を⊕⊖の表示に合わせて入れ、電池フタを閉じる。
→「ピ･ピ･ピ･ピ」と確認音が鳴った後、電波の受信を開始します。
※ 受信中は受信マークが点滅します。
※ 受信には最長10分かかります。
※ 受信中は、アラームとチャイムのON/OFF操作はできません。



＜透明の保護ラベルを剥がす＞

3 受信の結果を確認してください。
本書 ■ **受信の状態について**(P.3)を参照。

● 受信に成功すると、受信マークが点灯して自動的に時刻と日付を修正して表示します。

● 受信に失敗すると、受信マークは消灯します。
時刻･日付は修正されません。

■ 電波受信ができなかった場合は…

①朝までそのままにしておく

一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと、受信できる可能性が高くなります。

②設置場所を変える／受信をやり直す

本書 ■ **電波時計について** の 電波を受信しにくい環境 (P.3)を参考にして設置場所を変え、リセット操作をして再度受信をさせる。

③手動で時刻を設定する

電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。
本書 ■ **手動で時刻を設定する**(P.2[下記])を参照。

■ 手動で時刻を設定する

⚠注意

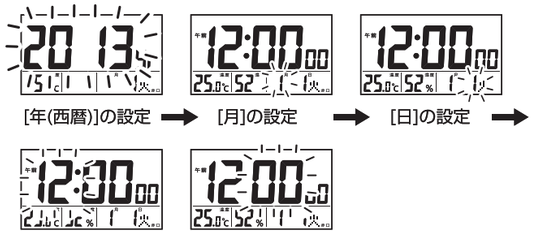
● 設定中の点滅は約15秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して、通常表示に戻ります。

1 通常時刻表示のとき、**モード/セットボタン**を3秒以上押し続ける。
→[年(西暦)]が点滅し、時刻設定モードに入ります。

2 ⊕**ボタン**、⊖**ボタン**を押して、[年(西暦)]を設定する。

3 **モード/セットボタン**を押すごとに[年(西暦)]→[月]→[日]→[時]→[分]が点滅するので、⊕ボタン、⊖ボタンを押してそれぞれを設定する。
※ [秒]は[分]の設定時に⊕**ボタン**、⊖**ボタン**を押すごとに00秒に設定されます。

4 [分]の設定が終了したら**モード/セットボタン**を押す。
点滅が終了し、設定された時刻と日付が表示されて、手動による時刻･日付設定が完了します。



[年(西暦)]の設定 → [月]の設定 → [日]の設定 →

→ [時]の設定 → [分]の設定

※ **[年･月･日]を合わせないと[曜日/六曜]は正しく表示されません。**

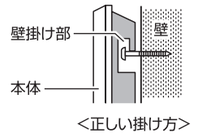
■ 自動電波受信機能について

本製品は、時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

■ 時計の掛け方について

⚠注意

掛け方が不適切な場合、落下する危険があります。



＜正しい掛け方＞

● 掛け具に時計を掛けた際に、時計本体を上下･左右･前後に軽く動かして、確実に掛かっていることを確認してください。
● 時計は垂直･水平に掛けてください。
● ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に掛けてください。
● 落下の原因になりますので、壁掛け部以外には掛けないでください。
● 壁の裏側に電気配線等がある場所に取り付けると掛け具で電気配線等を傷つけ、火災･感電につながるおそれがあります。
事前に電気配線等の位置を確認し、取り付けてください。
● 壁の材質･構造を確認の上、この時計の重さに充分耐えられる掛け具を選んでください。
※ 材質構造がご不明の場合は、建築メーカー等へ相談してください。

■ 電波時計について

▼ 電波時計とは

標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。
※ 電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

▼ 標準電波とは

情報通信研究機構(NICT)が運用している時刻情報をのせた電波です。
標準電波送信所は、福島県の「福島局:おおたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にある「九州局:はがね山標準電波送信所」の国内2か所にあります。
※ 標準電波の時刻情報は、およそ10万年に 1 秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」によるものです。

▼ 標準電波の送信停止について

標準電波は毎時15分と45分から各1分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波(送信停止)することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

▼ 日本国外でのご使用について

本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。
海外で使用した場合、ご使用になる場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場合があります。あらかじめご了承ください。

▼ 電波の受信範囲について

送信所からおおむね半径1000kmとされています。
※ 電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

● 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
● ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
● 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
● 金属製の雨戸やブラインドの近く
● 高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
● 自動車、電車、飛行機などの中
● 家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
● スチール机などの金属製家具の上や近く
● 朝･夕の時間帯や雨天のとき

※ 電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作をして深夜の時間帯や使用する場所を変更してご使用ください。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準時グループ」を参照してください。
情報通信研究機構 ホームページアドレス https://jjy.nict.go.jp

■ 受信の状態について

点滅中	■受信中(電波を探している状態)です。
点 灯	■受信に成功して時刻/日付修正を終了しています。 ※次の受信開始まで点灯し続けます。
消 灯	■受信に失敗して終了しています。 ※次の受信開始(点滅)まで、表示されません。

■ アラーム時刻の設定

⚠注意

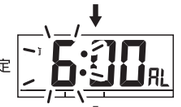
● 電波受信中は、アラーム時刻の設定はできません。
設定中の点滅は約15秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して、通常時刻表示に戻ります。

1 通常時刻表示のときに、**モード/セットボタン**を押す。
→アラーム時刻が表示します。

[アラーム時刻]の表示

2 **モード/セットボタン**を3秒以上押し続ける。
→アラーム時刻設定モードに入り、[時]部分が点滅します。

[時]の設定



3 ⊕**ボタン**、⊖**ボタン**を押して[時]を設定する。

4 [時]の設定が終了したら、**モード/セットボタン**を押す。
→[分]部分が点滅します。

[分]の設定

5 ⊕**ボタン**、⊖**ボタン**を押して[分]を設定する。

6 [分]の設定が終了したら、**モード/セットボタン**を押す。
→アラーム設定時刻が表示されて設定が完了し、約15秒後に通常時刻表示に戻ります。
※ アラーム時刻は[秒単位]の設定はできません。
※ [午前]と[午後]を間違えないように注意してください。

■ アラーム機能の使い方

▼ アラームを鳴らす

アラームボタンを押す。→アラームマークが点灯し、設定した時刻になると、アラームが鳴ります。
アラームは鳴り始めから約2分後に自動的に鳴り止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。
※ アラームマークは点灯したままです。

▼ アラームを止める

いずれかのボタンを押す。→アラームが鳴り止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。
※ アラームマークは点灯したままです。
アラーム停止後、**アラームボタン**を押す。→アラームマークが消灯し、アラーム機能が解除されます。

■ プログラムチャイムの使い方

プログラムチャイムを設定することで、任意の時間にチャイムを鳴らすことが出来ます。(最大4回)

⚠注意

● 電波受信中は、プログラムチャイムの設定はできません。
設定中の点滅は約15秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して、通常時刻表示に戻ります。

1 通常時刻表示のときに**モード/セットボタン**を2回押す。
→チャイム[1]の設定時刻が表示します。
※ **モード/セットボタン**を押すごとに、「チャイム[2]」→「チャイム[3]」→「チャイム[4]」の設定時刻が表示します。
設定するチャイムを選んでください。